

『家族研究年報』執筆要領 (2020年9月20日改定)

1. 原稿は横書きで、A4判用紙に40字×33行とする。
2. 原稿の構成は、題目、和文要約、キーワード、本文、注、文献の順とする。なお、ワープロ・ソフトの文字カウント機能を使って、本文・注・文献部分の合計文字数（スペースを含めない）を算出し、原稿の末尾に記入すること。英文タイトル、英文要約、英文キーワードを別紙で添付する。
3. 和文要約は400字以内、英文要約は300語以内、キーワードはそれぞれ3語以内とする。
4. 本文、要約、注ともに和文は全角文字、欧文は原則として半角文字とする。
5. 原稿は、和文で、「である調」による執筆を原則とする。
6. 本文中の見出しおよび小見出しは以下の順でランクを統一する。
 1.
 - 1)
 - a)
7. 図および表は本文とは別に添付し、挿入箇所を原稿の右の余白部分に指示する。
 - (1) 図および表のタイトル等の位置は以下のようにする。
 - (a) 図の場合 図本体の下に、図の注、出典、その下に図タイトル
 - (b) 表の場合 表タイトルの下に表本体、表の注、出典
 - (2) 図および表の番号は、図1、表1というように、それぞれ通し番号とする。
 - (3) 図および表の出典は、著作権等の関係から、オリジナルな場合を除き必ず明記する。
 - (4) 必要に応じて、図および表の原著者または著作権所有者から使用許可を得ておく。
8. 注は、本文中の該当箇所に、1) 2) のように番号を付し、本文末尾に番号順に記す。
9. 文献の記載は、以下の要領で行う（下記の「文献」リスト例を参照のこと）。文献ごとの通し番号はつけず、和文・欧文を分けずに全体を通してアルファベット順で記載する。なお、同一文献が2行以上にわたる場合には、2行目から2字下げる。また、同一著者が同一年に発行した異なる文献を記載する場合は、発行年にアルファベットをつけて区別する。同一著者の文献が複数あった場合、2つ目以降の著者名はダッシュなどで省略せず、そのまま著者名を示す。欧文文献の場合は、著書名および雑誌名はイタリック体とする。欧文文献リストにおいて著者が複数であった場合、第二著者以降は「姓、名」で記す。なお、典拠した文献を示す注は、本文中の適切な箇所に、カッコ書きの割注として記載する。スタイルは、次の例に倣うこと（Wellman and Gulia 1999; 宮本ほか 1997: 10-12; 新潟日報 1989a, 1989b）。

【例】

文献

池岡義孝、1997「現代中国都市住民の家族認識の構造」『家族研究年報』22、48-69

- 国立社会保障・人口問題研究所、2006「第13回出生動向基本調査 結婚と出産に関する全国調査夫婦調査について——結果の概要」国立社会保障・人口問題研究所ホームページ (2011年3月10日取得、<http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou13/point13.asp>)
- 宮本みち子・岩上真珠・山田昌弘、1997『未婚化社会の親子関係——お金と愛情にみる家族のゆくえ』有斐閣
- 宮坂靖子編、2004『アジア諸国におけるジェンダーの比較研究——日本・韓国・中国・タイ・シンガポールを対象に』2001-2003年度科学研究費補助金研究成果報告書、奈良女子大学
- 新潟日報、1989a「百霊廟の精神脈々と」1989.8.13
- 新潟日報、1989b「クローズアップされる『百霊廟』の阿弥陀仏」1989.12.2
- Raymo, James M., and Iwasawa, Miho, 2005 “Marriage Market Mismatches in Japan: An Alternative View of the Relationship between Women’s Education and Marriage”, *American Sociological Review*, 70 (5), 801-822
- Shorter, Edward, 1975 *The Making of the Modern Family*, Basic Books (=田中俊宏・岩橋誠一・見崎恵子・作道潤訳、1987『近代家族の形成』昭和堂)
- 渡辺秀樹、1999「戦後日本の親子関係——養育期の親子関係の質の変化」目黒依子・渡辺秀樹編『講座社会学2 家族』東京大学出版会、89-117
- Wellman, Barry, and Gulia, Milena, 1999 “The Network Basis of Social Support: A Network Is More than the Sum of Its Ties”, Wellman, Barry ed., *Networks in the Global Village: Life in Contemporary Communities*, Westview Press, 83-118